



写真：特定非営利活動法人OWS
ミッドウエー環境のコアホウドリと漂着ごみ

2008年度 概要版

海辺の漂着物調査報告書



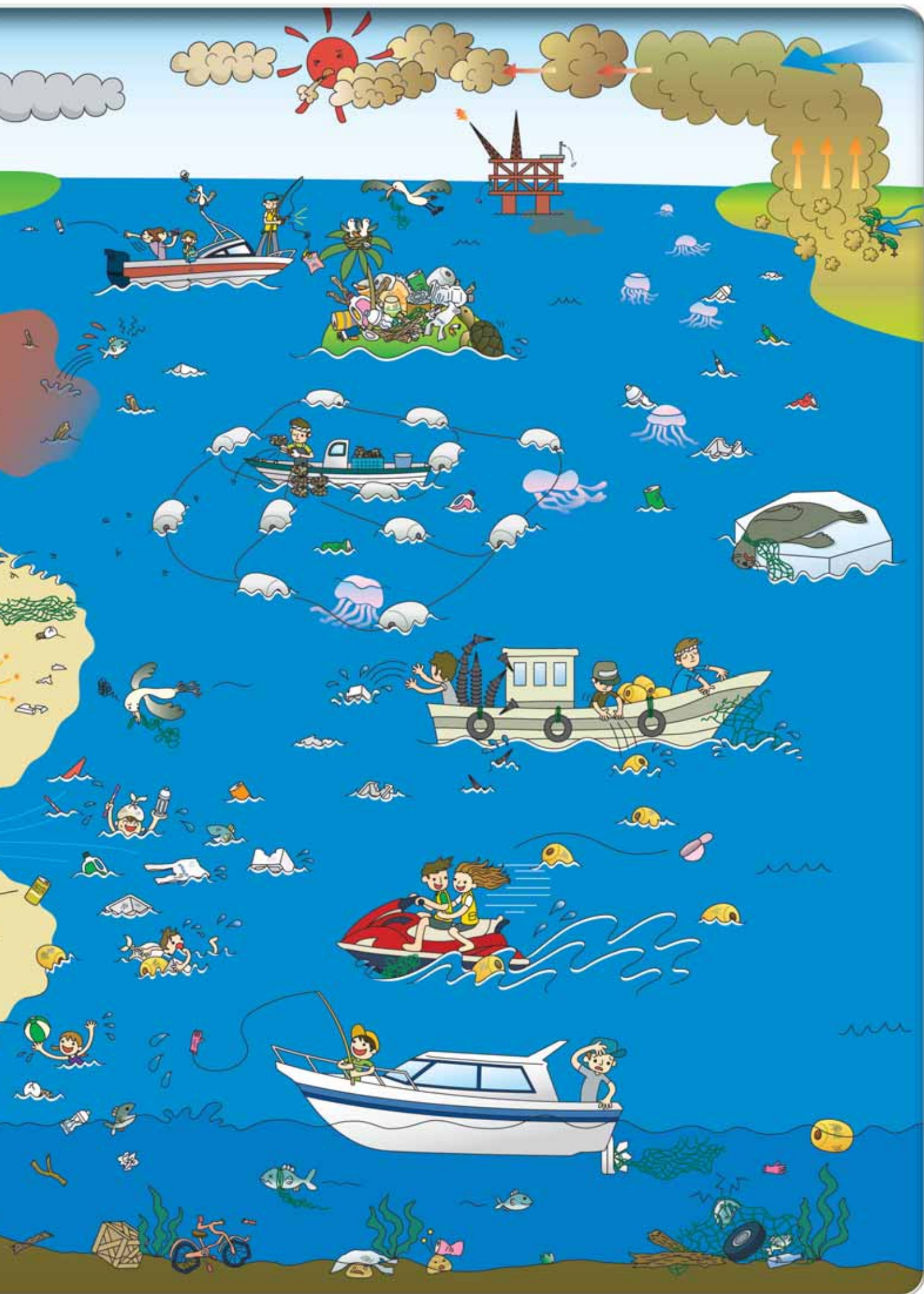
海を汚している行動はどれですか？

바다를 오염시키는 행동은 어떤것입니까？

污染海洋的行动有哪些？

Какие из действий служат причиной загрязнения моря？





1. 海辺の漂着物調査

漂着物調査の目的等

日本海は、日本、韓国、ロシア等に囲まれた閉鎖性海域であり、歴史的にも経済交流や文化交流が盛んであるとともに、沿岸地域住民にとって、漁業資源や海洋レクリエーションの場として数多くの恵みをもたらしてくれる貴重な共有財産です。しかしながら、近年、豊かで美しいといわれている日本海で、漂流・漂着物による海岸の汚染や生態系への影響が懸念されています。

このような状況のもと、(財)環日本海環境協力センターでは、沿岸自治体との連携・協力体制の構築や漂着物等による海辺の汚染実態の把握等を目的として、1996年度から「日本海・黄海沿岸の埋没・漂着物調査」を実施しています。当初、日本国内の10自治体の連携・協力により開始された調査は、その後、日本海・黄海に面する日本国内の自治体や中国、韓国、ロシアの海外自治体が参加し、2008年度は、日本24自治体、ロシア3自治体、韓国2自治体、中国2自治体の計31自治体の78海岸において、地元市町村、NGO・NPOなど様々な主体が連携・協力する国際共同調査として実施されています。

参加自治体数、海岸数及び参加人数は図4-1のとおり、本調査のように、4か国協働の環境モニタリング事業は事例が少なく、その結果が国際機関でも取り上げられるなど国内外で評価を得ています。

今後とも当センターは、調査への参加を通して沿岸地域の住民が「ごみを捨てない心、海の環境を守ろうとする心を育む」という共通意識を持てるように、そして、環日本海の環境保全に貢献するため、国連環境計画（UNEP）、北西太平洋地域海計画（NOWPAP）、政府、自治体等と連携・協力して海辺の漂着物調査を実施してまいりたいと考えております。

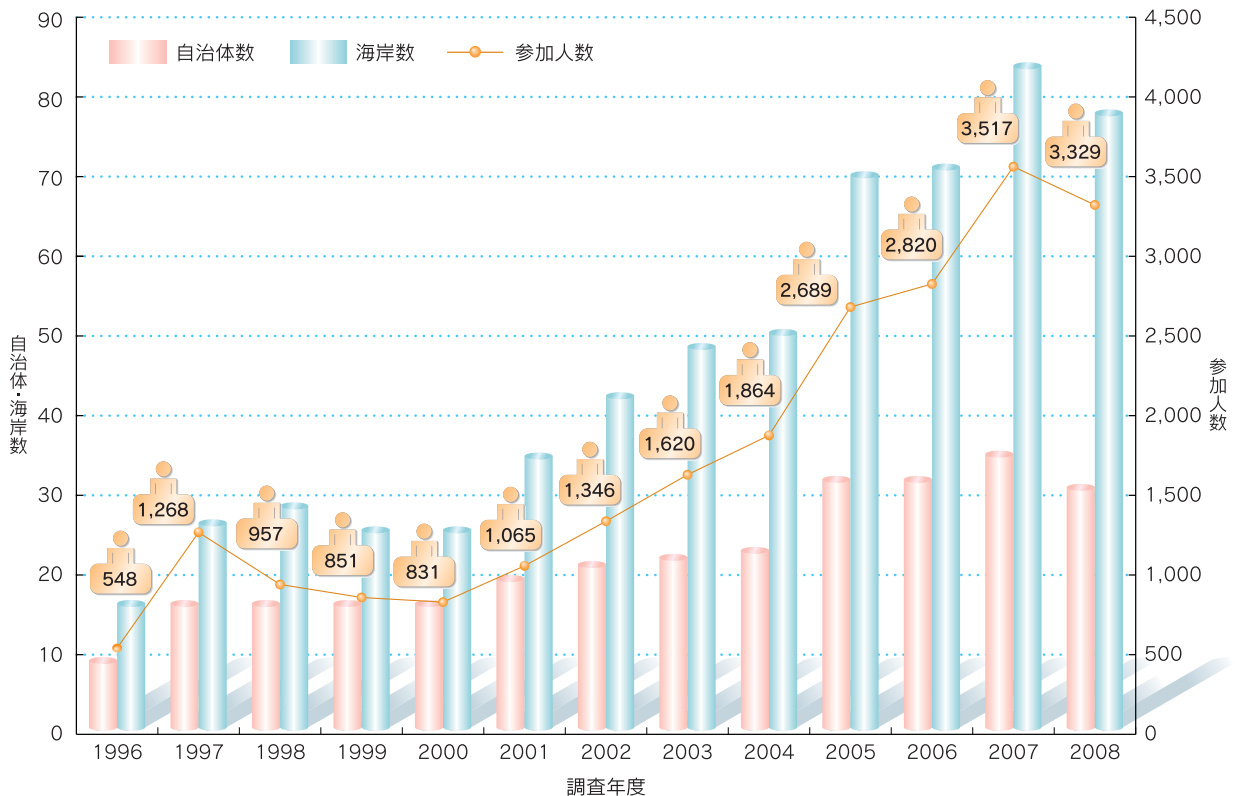


図4-1 自治体数、海岸数及び参加人数の推移

調査の概要(2008年度)

1) 調査期間

調査は、2008年4月から2009年3月までの期間にかけて実施しました。

2) 調査主体

調査は、各県や市町村が中心となり、地元の市町村、NGO・NPO、こどもエコクラブ等と連携・協力して行われました。2008年度は、31自治体の78海岸で延べ3,329人が調査に参加しました。

(※参加団体名等の詳細は、参考資料を参照)

3) 調査海岸

漂着物調査は、日本、中国、韓国及びロシアの4か国の78海岸で実施されました(※図5-1)。

また、埋没物調査は、日本・ロシアの2か国、10自治体の12海岸で実施されました。

4) 調査方法(※詳細は、参考資料の調査方法を参照)

【漂着物調査】

砂浜に縦横10mの区画を設定し、区画内の漂着人工物を全て集めます。集めた漂着物は、区画ごとにプラスチック類、ガラス・陶磁器類など8種類に分類し、それぞれの個数及び重量を測定します。

【埋没物調査】

縦横40cmの正方形の枠を砂浜に埋め、枠内の砂の一定量(40cm×40cm×5cm)をバケツに集めます。その後、バケツ中に海水等を入れてかき混ぜ、浮上したプラスチック粒子等をネットですくい上げ、サイズ毎に分類し、個数及び重量を測定します。

結果概要

【漂着物調査】 2008年度の調査面積は全体で60,360m²であり、集めた漂着物の総個数は133,759個、総重量は1,430,740.6gでした。

【埋没物調査】 2008年度の調査面積は全部で5.6m²であり、集めた埋没物の総個数は14,602個、総重量は86.4gでした。



図5-1 2008年度 調査実施海岸

1. 海辺の漂着物調査

調査結果(2008年度)

1) 漂着物個数及び重量

2008年度の漂着物調査結果は、100m²あたりの漂着物平均個数は273個/100m²であり、この内訳は、「プラスチック類」が196個/100m²（100m²あたりの総個数の72%）と最も多く、次いで「発泡スチロール類」48個/100m²（同18%）の順でした。100m²あたりの漂着物平均重量は3,649g/100m²であり、この内訳は、「プラスチック類」が2,331g/100m²（100m²あたりの総重量の64%）と最も多く、次いで「その他の人工物」485g/100m²（同13%）の順でした。

このように「プラスチック類」や「発泡スチロール類」のような、軽くて、破片化されやすいプラスチック製の素材や、木片等が含まれる「その他の人工物」が漂着物全体に占める割合が、とても高くなっています。

また、エリア別平均個数では、「エリアA」が676個/100m²と最も多く、次いで「エリアD」488個/100m²の順であり、「エリアE~J」は少ない結果でした。

エリア別の全般的な特徴としては、日本の海岸を北上するにしたがい漂着物の個数及び量が少なくなる傾向がみられました。

さらに国別には、日本の海岸は、他の国と比べて、量・個数ともに多い傾向が確認されており、その要因については、今後、越境漂着物による影響や海岸管理体制の違いなどについて検討していく必要があります。

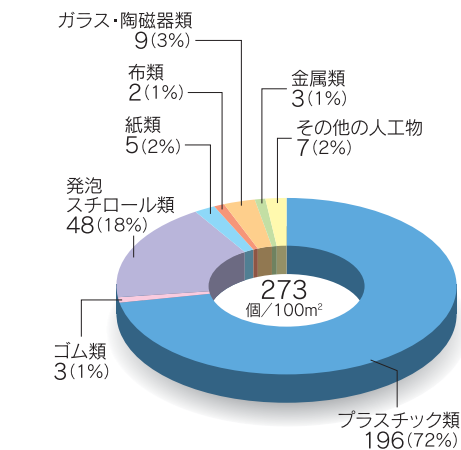


図6-1 2008年度 海辺の漂着物 100m²あたりの個数(個)

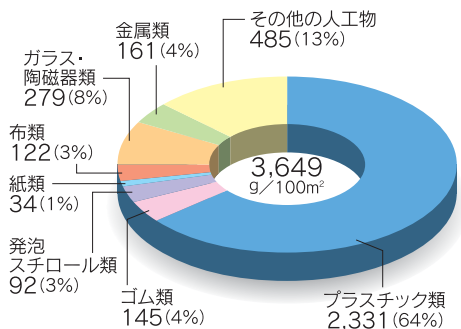
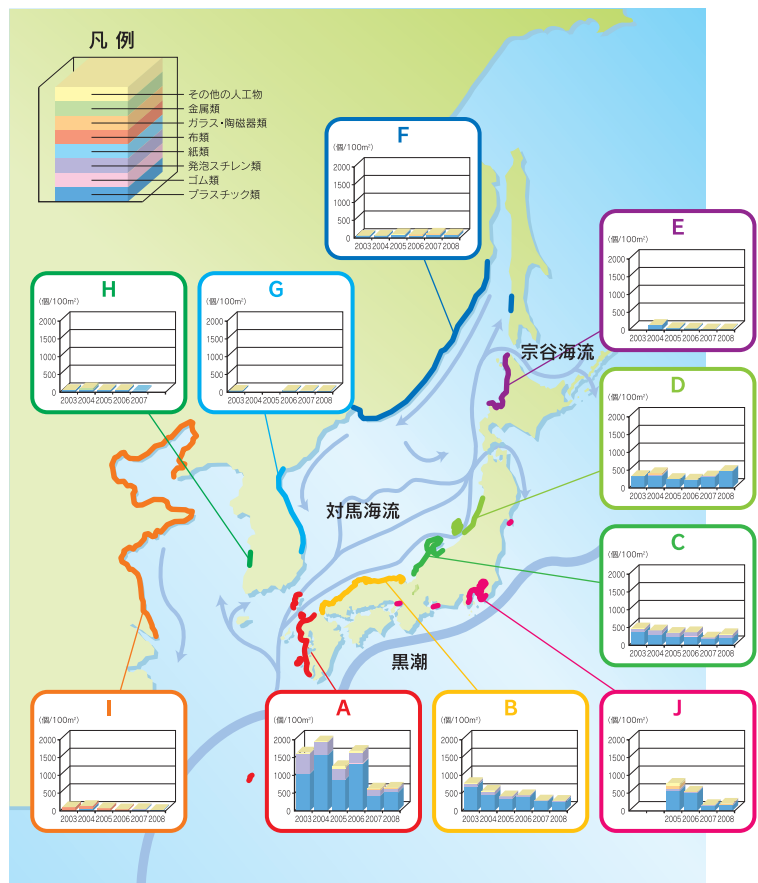


図6-2 2008年度 海辺の漂着物 100m²あたりの重量(g)



2) 埋没物調査

埋没物調査結果は、図7-1に示すとおり、採取した埋没物の総個数は14,602個であり、「発泡スチロール」が13,042個（総個数の89%）と最も多く、次いで「製品・製品破片」が1,215個（同8%）の順でした。破砕化しやすく細分化しやすい、「発泡スチロール」、プラスチックの「製品」や「製品破片」が多い結果となりました。

これらの結果を漂着物調査結果と併せて考えると、日本海沿岸の砂浜へ恒常的に漂着する「発泡スチロール」などの漂着物が、時間の経過とともに劣化・破砕化され、海象・気象等の環境要因により砂浜に埋没し、自然分解されず蓄積されていることが推察されます。

さらに、漂着物及び埋没物の関係をみると漂着物の多い海岸では埋没物も多い傾向があり、埋没物が漂着物と同程度若しくは、それ以上に存在する海岸も確認されました（図7-2）。

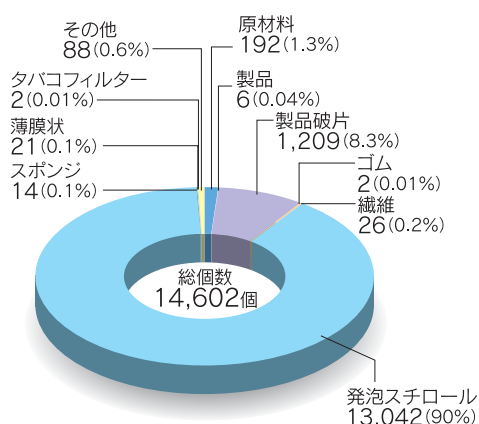


図7-1 埋没物の分類別個数の割合

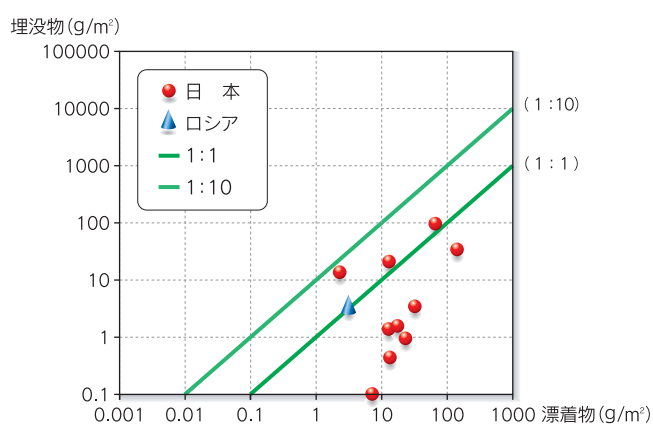


図7-2 漂着物と埋没物との関係

まとめ

日本海・黄海沿岸への漂着物は一部の離島や地域を除き、全体的に、日本の海岸を北上するにしたがい漂着物の個数や量が減少するという傾向がみられ、また、これら漂着物の発生源は、河川経由してきたものや海岸利用者が捨てたものなど、国内の身近な生活活動に関係するものが大半でした。

海岸に漂着した漂着物の多くは、軽くて、自然分解されず、遠距離を漂流する“プラスチック製のごみ”であったことから、今回調査を行った海岸以外にも大量のプラスチック製のごみが漂着していると考えられます。また、プラスチック製ごみは、海上にも大量に漂っており、さらに海底にもたくさんのごみが沈んでいると考えられます。これら様々な空間に存在する海洋ごみは、人間が取り除かなければいつまでも存在し続けるものがほとんどであり、その存在は景観を損なうだけでなく、小さな「プラスチック破片」等は、海鳥や海洋生物がエサと間違えて食べたり、水産資源に混ざったり、回収・処理にお金がかかるなど、文化面、環境面、経済面、安全面、健康面など様々な分野に影響がおよぶことになります。

このような海洋ごみ問題の解決策の基本は“ごみを出さないこと”であり、私達一人ひとりがごみを出さないような地球環境にやさしい生活スタイルを心がけ、将来に向けて実践することが大切であります。

2. 海洋ごみの削減に向けて

私達にできること

できることから始めましょう！
あなたの行動が世界をかえることにつながります！



一人ひとりが「海洋ごみアクション」を考えよう！

私たちの身近にある海岸には、いろいろな種類のごみが漂着しています。

これらは、海岸の景観を損ねたり、生物に悪い影響を及ぼすだけでなく、地球規模の環境汚染としても問題となっています。

この問題は、人間のいろいろな活動に起因していますが、特に、身近な生活系のごみが散乱し、山、川とつながる水の流れにのって海に行き着き、海岸に漂着することが考えられます。

海から多くの恩恵を受けている私たちは、一人ひとりが日常生活の中でごみを散乱させない意識を持つことが大切です。まずは、自分のできることから取り組みましょう。

海洋ごみアクション

〈市民共通の思い〉

～ひとつの海 足元から地球へ～

私たちの海は、世界中の海と繋がっています。

足元に落ちているごみが、やがて地球を巡り、世界中に行き着きます。

まずは、足元から行動を起こし、地球全体に広げましょう。

〈市民アクション〉

捨てない : ポイ捨てしない。投げ捨てしない。
ごみの投棄のない社会にしよう。

きれいにしよう: 河川、海岸や身近な場所をきれいに(清掃)しよう。

考えよう : 清掃活動、海洋ごみに関する調査や学習の機会に参加し、
海洋ごみ問題の解決のためにみんなで考えよう。

3Rって知っていますか？

3Rは、**Reduce**(リデュース)、**Reuse**(リユース)、**Recycle**(リサイクル)の3つの英語の頭文字を表し、その意味は次のとおりです。

- ・**Reduce** (リデュース)は、使用済みになったものが、なるべくごみとして廃棄されることが少なくなるように、ごみの発生自体を抑制すること
- ・**Reuse** (リユース)は、使用済みになっても、その中でもう一度使えるものは廃棄しないで再使用すること
- ・**Recycle** (リサイクル)は、再使用ができずまたは再使用された後に廃棄されたものでも、再生資源として再生利用すること

○3R活動とは、この3つのRに取り組むことで、ごみを限りなく少なくし、ごみの焼却や埋立処分による環境への悪影響を極力減らし、限りある地球の資源を有効に繰り返し使う社会(=循環型社会)をつくろうとするものです。

3. 参考資料

海洋ごみ問題に関する普及・啓発活動

海洋ごみ問題については、実態把握や議論のみならず、具体的な対策を始めることが必要となっていますが、市民への海洋ごみ問題の浸透は不十分な状況です。

このように多くの市民が地球規模の海洋環境問題としての海洋ごみ問題について理解を深めることが求められています。

海洋ごみ問題に関する普及・啓発活動は、身近な取組みを進めていくための対策として第一歩となるものであり、今後、各地域で広く展開されることが期待されます。

海洋ごみに関するフォーラムの開催

海洋ごみ対策に取り組む活動団体の事例発表や海洋ごみへの理解を深める講演など、一人ひとりが取組みを具体的に考え行動に移していくためのきっかけとなるものです。



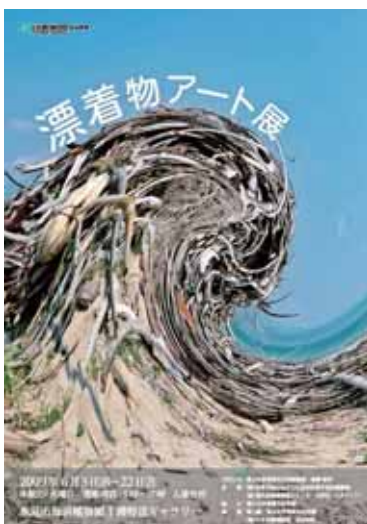
市民グループによる事例発表



学識者による講演

漂着物アート展

市民に幅広く、海洋環境や海洋ごみ問題に関心を持ってもらうため、環境月間の行事として、氷見市海浜植物園、富山大学芸術文化学部の協力を得て、漂着物アート展を開催しています。



海岸漂着物処理推進法の制定(日本)

海岸における良好な景観及び環境の保全を図る上で、海岸漂着物等がこれらに深刻な影響を及ぼしていることから、海岸漂着物対策を総合的かつ効果的に推進するため『美しく豊かな自然を保護するための海岸における良好な景観及び環境の保全に係る海岸漂着物等の処理等の推進に関する法律(海岸漂着物処理推進法)』(2009.7.15)が制定されました。

法律の主な内容

海岸漂着物対策に関する基本理念

- ①総合的な海岸の環境の保全及び再生
- ②責任の明確化と円滑な処理の推進
- ③海岸漂着物等の発生の効果的な抑制
- ④海洋環境の保全
- ⑤多様な主体の適切な役割分担と連携の確保
- ⑥国際協力の推進

関係者の責務

- 国:総合的な施策の策定及び実施、基本方針の策定など
- 地方公共団体:区域に応じた施策の策定及び実施、対策の推進計画の策定など
- 事業者及び国民:事業活動に伴う海岸漂着物等の発生抑制、海岸漂着物対策に対する関心と理解、協力など

基本的な海岸漂着物対策

海岸漂着物等の円滑な処理

- ①海岸管理者等による必要な措置
- ②地方公共団体による海岸管理者等への必要な協力要請
- ③国による外交上の適切な対応

海岸漂着物等の発生抑制のための対策(国及び地方公共団体)

- ①発生の状況及び原因に関する調査
- ②ごみ等を捨てる行為の防止
- ③土地の適正な管理に関する助言及び指導等

その他海岸漂着物等の処理等の推進に関する施策

- ①民間の団体等との緊密な連携の確保等(国及び地方公共団体)
- ②海岸漂着物等に関する問題についての環境教育の推進(国及び地方公共団体)
- ③海岸漂着物等の処理等に関する普及啓発(国及び地方公共団体)
- ④技術開発、調査研究等の推進等(国)
- ⑤財政上の措置(政府)

3. 参考資料

調査方法

この調査では、海岸に存在する海洋ごみの実態把握だけでなく、その発生源をも推測するため、材質別に大きく分類し、さらに機能や製造時の用途別に細分類をしています。

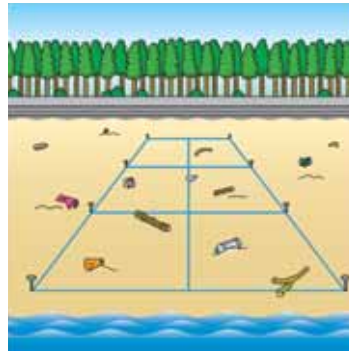
1) 漂着物調査

①事前調査

事前に、海岸の用途、周辺の状況、直近の清掃状況等の基礎調査を実施する。

②調査区画の設定等

- 原則として、調査対象の海岸全体の漂着物の状態が把握できるよう、調査範囲を選定し、波打ち際から陸地方向へ連続的に縦横10mの区画（以下「調査区画」という。）を設定する。
- 調査区画は、原則1列とするが、海岸の奥行きが狭く1列あたり3区画を確保できない場合は、複数列とする。
- 調査区画は、調査範囲が判るように四隅に杭を打ち、その間をナイロン紐等で区別する。
- 調査区画内の漂着物（※人工のもの）を区画毎に次の8種類の大分類に区分し、重量及び個数を測定するとともに、漂着物の印字等から国内製造品と海外製造品にも分ける。



① 調査区画を設定しましょう。



② 漂着物を拾い集めましょう。



③ 漂着物を分けましょう。

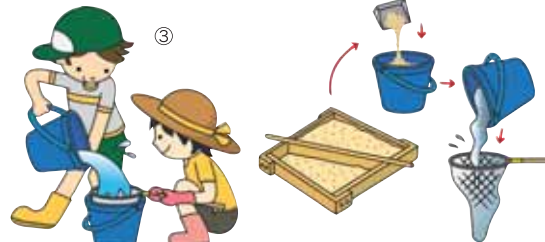
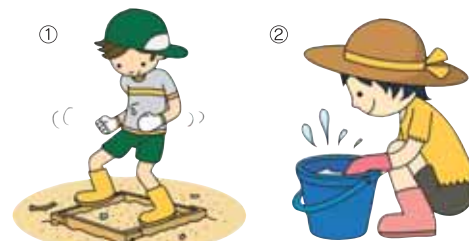


④ 漂着物の重量・個数をはかり、表に記入しましょう。

※調査方法は、JEANクリーンアップ全国事務局によるものを参考にしています。

2) 埋没物調査

- 調査地点は、漂着物調査を行う調査区画の外側に設定し、漂着物が目視で多い場所、少ない場所及び中間的な場所の3地点を選定する。
- 調査地点数は、1海岸当たり3地点とする。
- 調査は、縦横40cmの方形枠を設定し、枠内の表面の漂着物を除去した後、枠内の砂の一定量をバケツに採取し、これに海水を入れて攪拌する。その後、水面に浮上してきたプラスチック粒子等をネットで捕集する。



漂着物の採取手順

- | | |
|-------------------|------------|
| ①プラスチック原料(レジペレット) | ⑧薄膜状プラスチック |
| ②プラスチック製品 | ⑨オイルボール |
| ③プラスチック製品破片 | ⑩ペンキ片 |
| ④ゴム | ⑪タバコフィルター |
| ⑤繊維 | ⑫その他 |
| ⑥発泡スチロール | ⑬不明 |
| ⑦スポンジ | |

2008年度 調査海岸

エリア	番号	所在地	調査海岸名	100mあたりの 採集重量 (g/100m ²)	100mあたりの 採集個数 (個/100m ²)	調査参加団体	
A	1	沖縄県	大浜海岸	1055.7	327	Surfrider Foundation Japan	
	2	鹿児島県	吹上浜二瀬海岸	761.5	36	鹿児島大学水産学部環境情報科学講座航海情報研究室	
	3		磯海水浴場	235.7	347	鹿児島女子短期大学	
	4		清石浜	15981.0	765	香岐島環境問題を考える会、香岐市環境衛生課、長崎県香岐保健所	
	5		江角海岸	28171.5	1080	香岐島環境問題を考える会	
	6		小茂田浜	10548.0	490	金田小学校、対馬市環境衛生課、長崎県対馬保健所	
	7		太田浦海水浴場	2492.3	95	対馬市廃棄物対策課	
	8		越高海岸	68225.3	3515	対馬市廃棄物対策課、日本エヌ・ユー・エス(株)	
	9		雪の浦海浜公園	132.9	22	"Surfrider Foundation Japan、NPO法人長崎ビーチサービス"	
	10		佐賀県	相賀の浜	1506.7	560	湊中学校、佐賀県、唐津市
	11		福岡県	大口海岸	2649.7	201	桜野小学校、志摩町都市計画課、地元ボランティア、福岡県糸島保健福祉環境事務所、福岡県廃棄物対策課
B	12	山口県	角島大浜海水浴場	4163.3	319	滝部小学校、下関市環境政策課	
	13		綾羅木海水浴場	5591.0	306	川中西小学校、下関中央工業高校、下関市環境政策課	
	14		二位の浜	6208.3	555	日置中学校、長門市職員、山口県長門健康福祉センター、山口県廃棄物・リサイクル対策課	
	15		大浜海岸	8476.6	439	菱海中学校、長門市生活環境課、山口県廃棄物・リサイクル課、山口県長門健康福祉センター	
	16	島根県	北浦海水浴場	7103.5	84	松江市環境保全課、美保園支所、美保園観光協会、環境保全推進員	
	17	鳥取県	浦富海岸	249.3	212	いわみ自然を愛する会、岩美町住民生活課、鳥取県循環型社会推進課、鳥取県東部総合事務所環境・循環推進課	
	18		北条砂丘 東園浜	804.6	606	鳥取大学	
	19		浜村砂丘 姉泊海岸	1845.5	436	鳥取大学	
	20		弓ヶ浜海岸	1129.9	231	鳥取県循環型社会推進課、鳥取県西部総合事務所環境・循環推進課、米子市環境政策課、境港総合技術高等学校	
	21		兵庫県	浜坂県民サンビーチ	113.3	97	兵庫県但馬県民局県民生活部環境課、浜坂町くらしの会、浜坂北小学校
	22		京都府	琴引浜海岸	292.3	69	網野高等学校、京都府
23	太鼓浜		83.7	92	東山高等学校地学部		
C	24	福井県	浜地海水浴場	185.5	13	福井県安全環境部環境政策課、福井県安全環境部廃棄物対策課、三国海洋少年団	
	25		ダイヤモンドビーチ	1424.0	196	日本海環境サービス(株)、((財)環日本海環境協力センター)	
	26	石川県	千里浜海岸	2624.1	125	日本エヌ・ユー・エス(株)、石川県、羽咋市、羽咋都市広域圏事務組合、羽咋市教育委員会、国立能登青少年交流の家、グリーン・ビーチいしかわ実行委員会、金沢星陵大学池田研究室	
	27		柴垣海岸	2051.6	52	Surfrider Foundation Japan	
	28		大島海水浴場	3218.6	140	日本海環境サービス(株)、((財)環日本海環境協力センター)	
	29		波田浜	4986.4	191	南志見小学校、輪島市環境対策課	
	30		白崎海岸	7034.3	202	町野小学校、輪島市環境対策課、町野中学校	
	31		島尾・松田江浜	6123.5	1689	窪小学校、氷見市海浜植物園、氷見市、富山県、(財)環日本海環境協力センター、日本海環境サービス(株)	
	32		富山県	松太枝浜	266.2	631	太田小学校、太田校下老人クラブ、富山県立大学、富山県、高岡市、NOWPAP RCU、(財)環日本海環境協力センター、日本海環境サービス(株)
	33		海老江海岸	475.5	184	東明小学校、(財)環日本海環境協力センター、射水市、日本海環境サービス(株)	
	34		岩瀬浜	1276.0	292	岩瀬小学校、国際ソロプチミスト富山、富山大学、さんたろう倶楽部、富山市、富山県、(財)環日本海環境協力センター、日本海環境サービス(株)	
35	宮崎・境海岸		112.0	48	さみさと小学校、朝日町、富山県、(財)環日本海環境協力センター、日本海環境サービス(株)		
D	36	新潟県	四ツ郷屋浜	170.5	41	新潟県廃棄物対策課、新潟県環境企画課、新潟県環境対策課、新潟県保健環境科学研究所、新潟市危機管理防災課	
	37	山形県	荒浜漁港海岸	1870.9	237	日本海環境サービス(株)、((財)環日本海環境協力センター)	
	38		浜中あざり海水浴場	5160.6	233	山形県庄内総合支庁、酒田海上保安部、酒田市環境衛生課、浜中小学校	
	39		出来島海水浴場	1106.7	51	つがる市環境衛生課、青森県環境政策課	
40	青森県	越越海岸	41900.0	1877	横浜町税務町民課、青森県環境政策課、青森環境管理事務所		
E	41	北海道	石狩浜海水浴場	152.8	12	北海道環境生活部環境局環境政策課、石狩支庁地域振興部環境生活課	
	42		坂ノ下海水浴場	762.3	22	北海道宗谷支庁地域振興部環境生活課	
	43		野塚海岸	282.0	14	北海道後志支庁地域振興部環境生活課地域環境係	
	44		浜厚真海岸	1043.4	46	Surfrider Foundation Japan	
F	45	ハバロフスク 地方政府	トキ入江	1690.0	71	第2号総合学校、国立極東人文大学、国立太平洋大学、「ボツチンスキー」国立自然保護公園	
	46		アンドレイ入江	72.6	1	「ボツチンスキー」国立自然保護公園	
	47		オブマンヤ入江	1398.0	61	第2号総合学校、国立極東人文大学、国立太平洋大学、「ボツチンスキー」国立自然保護公園	
	48		ウツスリー湾エマル入江	329.3	142	沿岸地方政府環境保全局、「オケアン」全ロシア児童センター	
	49		ポポフ島ポグラニチナヤ入江	801.8	142	沿海地方政府環境保全局、ポポフ島第29番中等学校のエコクラブ	
	50		ナホトカ湾ヴァルナー海岸	1600.4	193	ナホトカ市政府環境、自然利用課	
	51		サハリン州	ロバチナ岬	7395.0	64	エコクラブ「アメラシ」、サハリン州政府天然資源・環境保全委員会
	G		52	江原道	河越臺(ハソテ)海水浴場	76.0	25
53		鏡浦(キョンポ)海水浴場	94.8		65	(社)清浄環境連帯(江原道春川市所在)	
54		望祥(マンサン)海水浴場	116.3		94	(社)清浄環境連帯(江原道春川市所在)	
55		コレブル海水浴場	19.0		17	慶尚北道、(社)クリン益徳推進会	
56		トグ海水浴場	353.0		71	青い浦項21推進協議会サークル	
57		マルル海水浴場	31.1		14	慶尚北道、ナム(木)サークル	
I		58	河北省		海港区東山海水浴場	39.6	25
	59	老竜頭海水浴場		24.8	21	秦皇島市南園中学、秦皇島市環境保護宣伝教育センター	
	60	老虎石海水浴場		59.3	35	北戴河第二中学、秦皇島市環境保護宣伝教育センター	
	61	北戴河碧螺塔海岸		25.3	20	北戴河第二中学、秦皇島市環境保護宣伝教育センター	
	62	黄金海岸浴場		38.7	33	北戴河第四中学、秦皇島市環境保護宣伝教育センター	
	63	西浴場		19.3	29	北戴河第四中学、秦皇島市環境保護宣伝教育センター	
	64	江蘇省		呂四鎮東海岸	3339.7	73	啓東市呂四鎮鶴城中学校、南通市対外友好協会、啓東市外事弁公室
	65	岡山県		釜島海岸	1634.6	612	(財)水島地域環境再生財団
	66	和歌山県		磯ノ浦海水浴場	275.3	41	Surfrider Foundation Japan
	67	兵庫県		甲子園浜	238.7	296	NPO法人「海浜の自然環境を守る会」
	68			甲子園浜(沖の埋立地海岸)	527.0	385	NPO法人「海浜の自然環境を守る会」
J	69	愛知県	赤羽根海岸	736.8	279	あかばね塾	
	70	神奈川県	大浜海岸	1277.9	283	NPO法人「オーシャンファミリー海洋自然体験センター」(オーシャンファミリービーチクリーニングクラブ)	
	71		由比ガ浜海岸	1030.9	166	Surfrider Foundation Japan	
	72	東京都	辻堂海岸	272.3	140	Surfrider Foundation Japan	
	73		葛西海浜公園 東なぎさ	2726.9	252	NPO法人えどがわエコセンター、葛西東渚鳥類園友の会、NPO法人荒川クリーンエイド・フォーラム、中土手に自然を戻す市民の会、いたばし野鳥クラブ	
	74		東海埠頭公園	5015.4	226	東アジア環境情報発信所	
	75		作田海岸	1719.4	11	Surfrider Foundation Japan	
	76		千葉県	大網白里海岸	389.2	41	NPO法人日本プロライフガード協会
	77		中里海岸	660.8	35	NPO法人日本プロライフガード協会	
	78		宮城県	荒浜	578.5	117	クリーンアップ蒲生、日本損害保険協会、仙台湾鳴り砂研究会

計4か国、31自治体、78海岸

平均 3,649.4

273

参加団体数: 185団体、参加人数: 3,329人

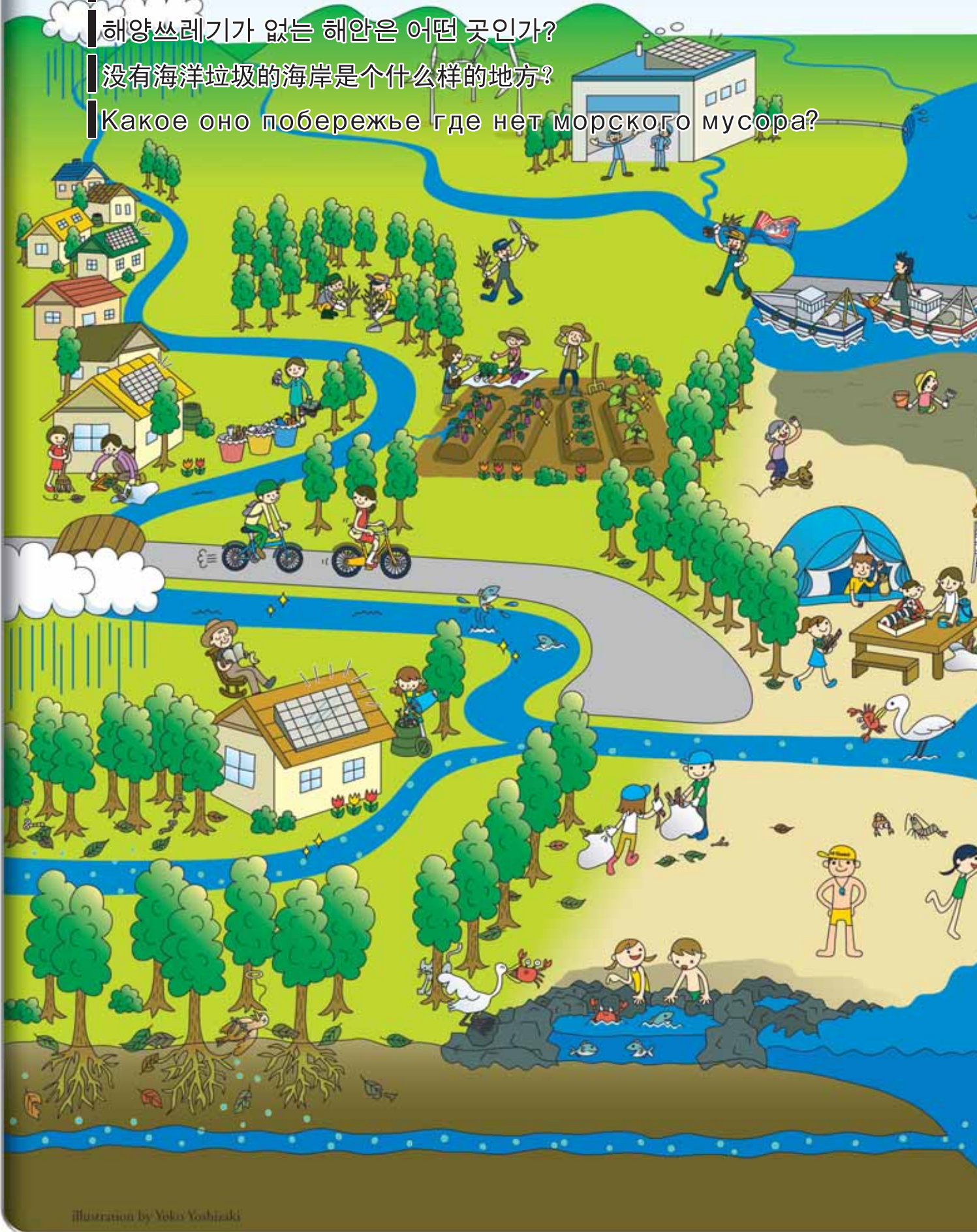
※エリアは図6-3を参照

海洋ごみがない海岸はどんなところ？

해양쓰레기가 없는 해안은 어떤 곳인가?

没有海洋垃圾的海岸是个什么样的地方？

Какое оно побережье где нет морского мусора?







富山県朝日町 宮崎・境海岸（ヒスイ海岸）



財団法人 環日本海環境協力センター
NPEC Northwest Pacific Region Environmental Cooperation Center (NPEC)

〒930-0856 富山県富山市牛島新町5-5
TEL. 076-445-1571 FAX. 076-445-1581
<http://www.npec.or.jp/>

